

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	文教経済委員会
参 加 者	委 員 長 畑 尻 宣 長 副委員長 原 田 範 次 委 員 大 原 昌 幸 三 塩 菜 摘 近 藤 敏 浩 井 町 圭 孝 磯 部 亮 次 三 宅 健 司 中 根 武 彦
視 察 日 時	令和 5 年 1 月 26 日（木）10:00～11:30
視察先・概要	千葉県松戸市 人口：497,120人 世帯数：247,529世帯 面積：61.38km ²
視 察 項 目	「送迎保育ステーション」について
視 察 概 要	1 待機児童の現状 平成27年4月には国基準での待機児童48人であったが、平成28年から令和4年4月の間は7年連続待機児童0人となっている。 2 待機児童対策 (1) 小規模保育事業の推進 特に保育需要の高い1歳～2歳児に対応するため、市内全23駅の駅前または駅なかに小規模保育所を整備した（平成29年6月完了）。 整備期間が短く、整備コストが安価であり、将来、撤退もしやすく一時的な需要にも対応できるメリットがある。 (2) 幼稚園預かり保育事業の拡充 3～5歳児への対応として、幼稚園に対する人件費補助や保護者に対する利用料助成の実施及び共働き世帯でも幼稚園を選択できる「長時間預かり保育」の促進（令和4年4月時点で、市内36園中24園が実施）を行った。 (3) その他の取組 ・公立保健所での3歳児受入れの拡大（17か所のうち15か所は段階的に3～5歳へ特化（令和3年4月～） ・認可保育園（認定こども園を含む）の整備 3 送迎保育ステーションについて (1) 背景（平成27年頃） ・松戸駅周辺や新松戸駅周辺の常磐線沿線に保育需要が集中していた ・東松戸地域に新設園が多く、空き定員の活用が見込めた ・ベットタウンとして都内の通勤者も多く、駅近で子供を預ける一定のニーズがある

(2) 目的と事業内容

- ・ 保育需要の高い松戸駅周辺から比較的定員に余裕のある地域（東松戸）に送迎し、地域偏在の解消を図る
- ・ 保育実績の高い市内の社会福祉法人に事業委託している
- ・ 市内の保育園、または幼稚園に入園している3歳児から就学前までの児童を対象としている
- ・ 指定園として保育園3園（保育園型）を指定している
- ・ 松戸駅西口に送迎保育ステーションを整備し、小規模保育施設を隣接することで兄弟児対応も可能である

(3) 仕組みの改善（幼稚園型への政策転換）

- ・ 保育園の空き定員をうまく分散させることができ、当初の課題を改善できたが、小規模保育施設の卒園児の受入れ先が新たな課題となったため、幼稚園の空き定員の活用と併せ、駅前に集中している小規模保育施設の卒園児童を幼稚園に送迎する幼稚園型に移行していく
- ・ 日中の空き時間は、一時預かり保育事業として幼稚園の休園日対応等も実施する

(4) 利用のイメージ

ア 送迎保育ステーションでの受入れ

保護者より園児を預かり、バスの出発時刻まで保育（午前7時～8時15分）

イ 地域園での保育

受入れ施設での保育・教育の実施（午前8時45分～16時）

ウ 送迎保育ステーションで保護者のお迎え

バスの到着時刻から保護者の迎え時間まで保育（午後4時30分～7時）

(5) 送迎保育ステーションの配置

各最寄駅から徒歩5分圏内を目安に開設し、働く親が通勤途中に子供を預けて幼稚園を利用することができるようにした。

また、東松戸、新松戸、北小金駅前ステーションではコワーキングスペースを設置した。

(6) 施設概要（抜粋）

- ・ 松戸駅西口送迎保育ステーション（保育園型）（平成27年10月1日～）

保育需要の高い松戸地域から定員に若干余裕のある地域に子供をバスで送迎し、地域偏在の解消を図った。現在は、主に小規模保育施設卒園児童を幼稚園に送迎する幼稚園型へ政策転換している。

- ・ 新松戸駅前送迎保育ステーション（幼稚園型）（平成30年4月1日～）

預かり保育の実施幼稚園がバスでステーションとの間を送迎し、幼稚園の預かり保育の促進を図った。

※日中の空き時間で一時預かりを実施（幼稚園の休園日対応）

- ・その他、五つの幼稚園型のステーションを開設した（令和5月1日現在、合計7施設、令和5年4月には2施設増の予定）

(7) 利用実績等（令和3年度）

- ・運営主体は5法人、利用者（登録者）は117名、連携施設（指定幼稚園）は8施設である
- ・コワーキングスペースは11件である（一時預かりは1,961件）

(8) 利用者の声（抜粋）

- ・共働きだと幼稚園を選択することに不安があったが、ステーションのおかげで保育園と変わらない生活スタイルで幼稚園に通わせることができ、働き方や暮らし方の選択肢が広がった。
- ・勤務場所が遠く、通勤時間がかかってしまうため、幼稚園への直接の送迎がすごく心配だった。ステーションを利用しているおかげで無理なく仕事を続けることができている。
- ・土曜日など、幼稚園がお休みの日は、ステーションに預けることができるので、助かっている。安心して仕事を続けられるのは、ステーションのおかげである。
- ・車がなく、直接送迎ができないため、幼稚園に通うのは難しいと思っていたが、送迎保育ステーションを利用できたおかげで幼稚園に通わせることができた。

(9) 課題

- ・整備費用の負担

一般的な整備費（改修工事費・賃貸借料）は2,000万円程度かかるが、市の補助上限額は1,000万円であり、応募法人の持ち出しが多く、負担が大きいのと感じてしまうため、応募への障壁となっている。

- ・物件（テナント）の確保

駅から徒歩5分以内、安全基準（2方向避難路、耐震など）、100㎡程度の面積、安全に乗降できるスペース、賃料が高額すぎない、などの物件としてのハードルが高く、確保が容易ではない。

- ・保育士の確保

主な勤務時間は、朝夕の時間帯のみであるため、正規の保育士確保が難しくステーション事業単独での運営は採算面から難しい。

- ・送迎先となる参入幼稚園の確保

幼稚園への送迎となるため、保護者の選択肢を増やすためにも1ステーションにつき3法人程度の参入幼稚園が求められる。

所 感 ※視察しての感想や 岡崎市への提言など	・小規模保育と送迎保育ステーションについて、本市の考え方、取組について確認したい。こうした制度の導入は課題になる案件である。 ・本市の市民ニーズに応えられるように、保育士不足対策等を推進しながら、送迎保育ステーション事業の検討をしていくことを提案する。松戸市の事例では、駅近辺の小規模保育施設等の民間法人が送迎保育ステーションを運営することに対して市から補助金を出し、民間幼稚園が送迎バスを運営しているが、その他の自治体の様に、市の費用でバスを運営し、公立保育園への送迎をしていることも含めて検討をしていくことを提案する。 ・子育てしやすい町で１位に選ばれた松戸市で、送迎保育ステーションが働く子育て世代の味方となるだけでなく、若い世代にとっても同市における子育てに対して良い印象を持つことができる事業だと感じた。中にはリモートで働く環境が用意されている送迎保育ステーションも存在し、ニーズに合わせたアイデアを形にする姿勢に対しても好印象であった。本市との大きな違いは、車通勤・電車通勤の割合であると考えるが、駅設置だけでなく車も駐車できるような環境を準備することができれば、本市で同様の取組も検討し得ると考える。 ・松戸市は、ベットタウンとして都内へ通勤する保護者が多く、保育需要が松戸駅周辺に集中している。送迎保育ステーションにて保護者より受け入れ、定員に余裕のある地域に送迎し、地域偏在解消を図る。本市も同様に一定の需要があると思われる。特にＪＲ岡崎駅近接の南部乳児保育園を利用していた保護者の需要は高いと思われる。松戸市は送迎ステーションを活用することにより、共働き家庭の子供を保育教育時間が８時～１６時である幼稚園にて受け入れることができる。本市でも同様の需要はあると思われる。こども園、保育園においても開所時間が８時から１７時３０分の園が１３園あり、その園が条件を満たせば、共働き家庭の選択肢が広がる。ただし、パートタイム労働に従事する家庭の需要を圧迫することに留意する。松戸市において送迎ステーションを活用することにより、フルタイムの共働き家庭の子供を保育教育時間が８：００～１６：００である幼稚園で受け入れることができるようになり、好評である反面、保育園の子供を奪うことになったそう。本市においても留意が必要である。松戸市では、送迎ステーションを往復する送迎バスを駐車するスペースの確保が必要であった。本市で送迎ステーションを運営しようとする、子供を自家用車で送ってくる保護者の駐車スペースの確保が必要になると思われる。松戸駅近くにある保育園に７時頃行ってみた。自転車や徒歩で子供を連れてくる父親を多く見た。幸いにも駅近くの保育園に子供を入れることができたので安心しているとのことだった。送迎を他人に任せることは不安であるとのこと。バ
--	--

スに置き去りにする事件が頻発したときは特に心配であったとのことである。

- ・ 幼稚園の長時間預かり保育制度を推進してからの、送迎保育ステーションの設置へと進んできている。子育て世代のニーズ（一定数の教育志向）と幼稚園園児の確保の問題（地域偏差）をうまくマッチングさせた事業であり、この全く新しい仕組みを運用にまでもっていく幼稚園との交渉や、送迎保育ステーション事業者との交渉などの努力に敬意を表したい。保育園よりも少子化の影響を受けやすい幼稚園と本市との協力体制について、松戸市の取組を参考にすべきと考える。
- ・ 0～2歳児の待機児童を減らすため、小規模保育事業者を増やす施策を最寄り駅近郊で展開して、併設で送迎保育ステーションを展開した。待機児童は解消され、かつ保育園と幼稚園の均衡が図れた。画期的な方法と感じた。小規模保育事業も国の施策もあり開業から2年で採算が取れるようである。本市にもよい施策であると感じた。できれば早々に取り組むとよい。
- ・ 事業の取組の始まりは平成27年度に行った駅前、駅ナカでの小規模保育事業である。利用者からの需要が高い1～2歳児に対応するもので、駅を利用することにより、利用者の利便性を図ることができ、施設を整備する時間を短縮でき、整備コストも安価に抑えることができる。保護者は保育園よりも幼稚園を希望することがアンケートにより把握できたことから、保育ステーションから幼稚園に送迎するという本事業に発展してきた。利用者ニーズの把握は重要であることが理解できた。幼稚園側も園児の確保ができるという効果も現れた。共働き世帯は保育園、そうでない世帯は幼稚園という一般的な概念が覆された。本市も共働き世帯は当たり前となり、保育園の役割はますます重要となっているが、共働き世帯でも子供を幼稚園に通わせたいと考えている世帯がどのくらいあるのか調査する必要はあり、今後、選択できる施策の展開へとつないでいくべきと考える。
- ・ 子育て世代にとって幼稚園・保育園の送迎問題は、どこの自治体でもある問題と思う。しかし、両親の勤務時間と合わない等の問題があり送迎問題が障害になっている。その送迎問題を行政がカバーしている仕組みが送迎保育ステーションであり、このような仕組みの考えに至った過程には、市民と行政とが幾度となく話し合いが行われた成果であると伺った。費用的にも国と市からの10/10支援で個人負担はゼロであることもすばらしいと思う。今回、松戸市の送迎保育ステーションの仕組みについて細部にわたり説明をいただき十分に理解できた。このシステムを、本市においても子供を育てやす

	い町岡崎を拡充していく考えがあれば、市長の公約でもある子育て支援のさらなる充実にもつながる事業になると考える。
委員長の総括	松戸市における幼児教育に求める親の思いを感じ取れる内容であった。進められている女性の働く機会を奪わないための施策でもある。テレビでも取り上げられており、本市も取り組むべき価値があると感じている。しかしその前に、0～2歳児の預かる場所の確保が急務であると思った。その上での、送迎サービスである。本市としては、保育の受皿の充実に送迎ステーションの設置による利便性の向上を目指すことで、安心して生み育てる環境整備につながると思った。